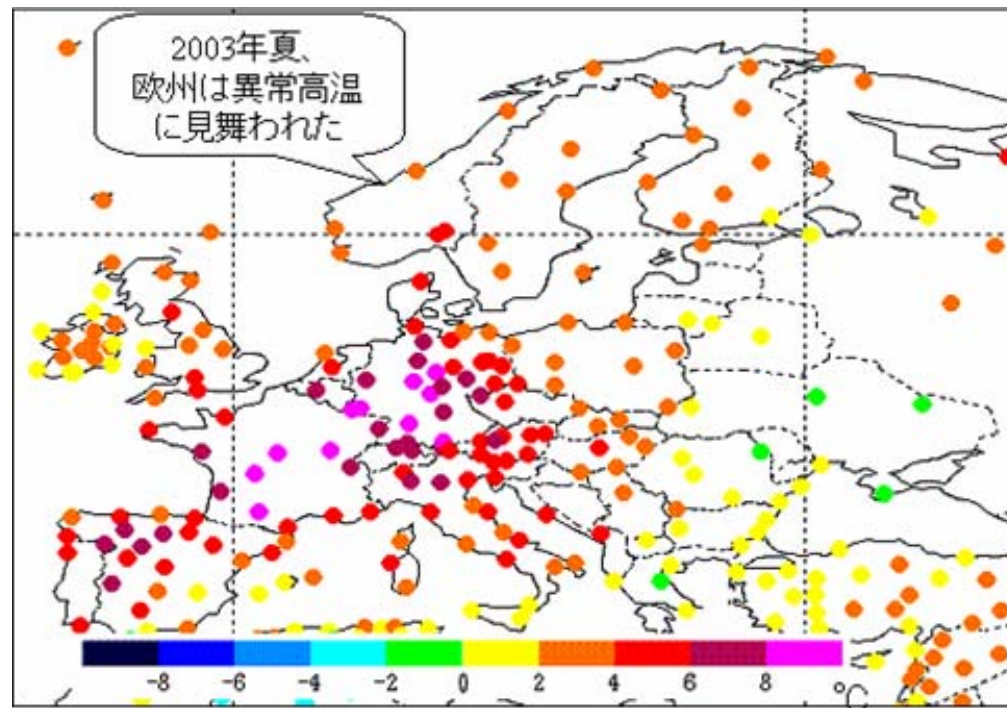


欧州の熱波は過去500年でみても 最大規模の熱波であった

- 2003年6月、7月の欧州大陸の気温は40°Cまで上がった。
- 過去の観測値の確率分布より、2003年の熱波は46000年に1度しか生起しない非常に稀なものであると見積もられる。
- 気候モデル研究では、将来に極値的気象が起きやすくなる変化(分散の増大)が欧州で予測されている。この分散変化が既におきつつあると考えると、2003年の熱波も説明がつく。
- 温暖化は気温上昇をもたらすだけでなく、気象の変動性(すなわち異常気象の発生)を増す可能性があることに、より注意を払っていく必要がある。



欧州の平均気温平年差の分布(2003年8月1~12日平均)

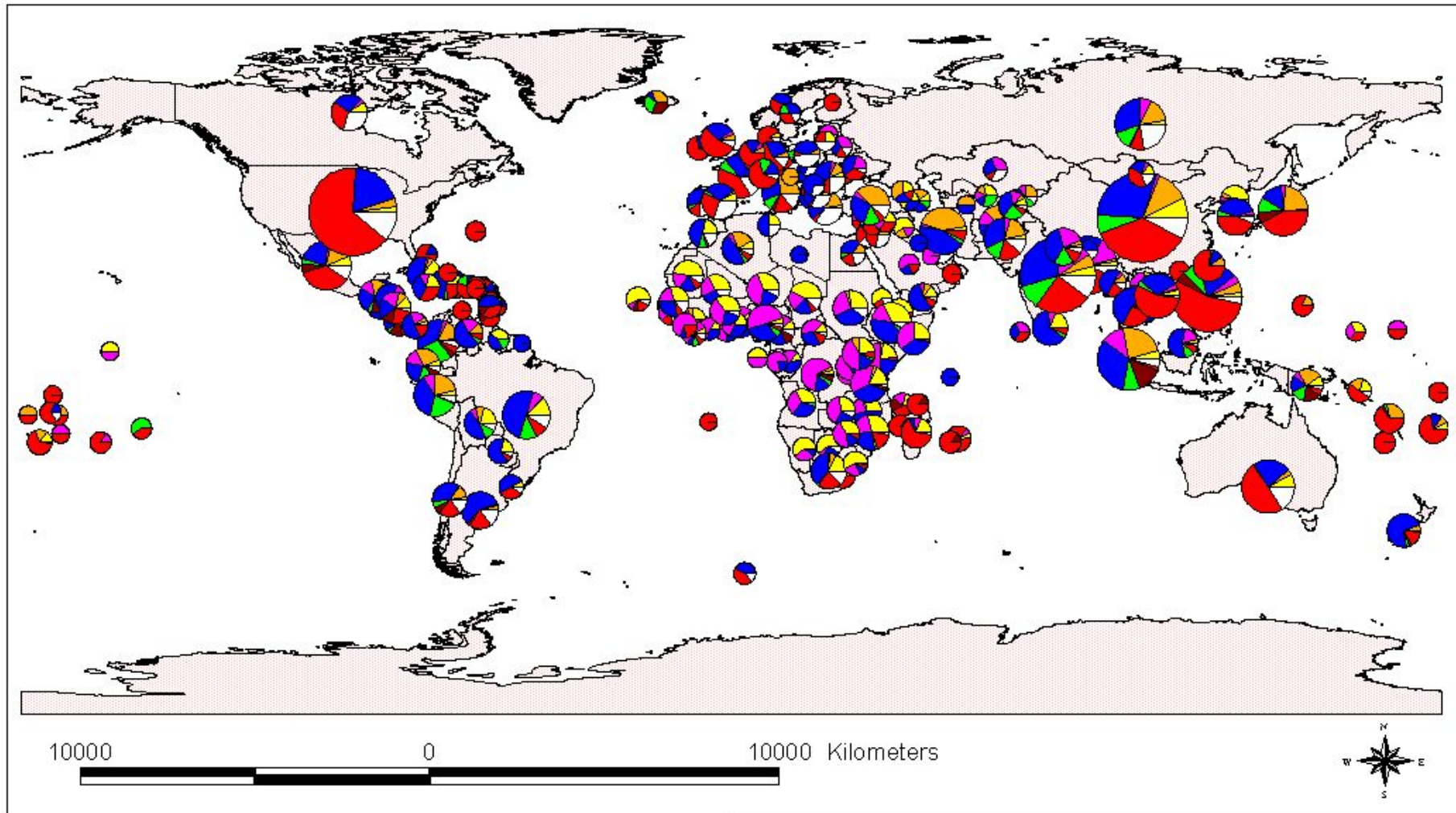
欧州では2003年6月から高温が続き、8月に入って異常高温となり、ロンドンで8月10日に37.9°C、パリで12日に40.0度を記録した(平年よりそれぞれ約17°C、16°C高かった)。

4. 異常気象の被害状況

EM-DAT (Emergency Events Database)

- The WHO Collaborating Centre for Research on the Epidemiology of Disasters (CRED) が運営 (1988年以降)
- WHOとベルギー政府が支援
- 自然災害の記録の規準
 - 死者10人以上の災害
 - 被災者100人以上の災害
 - 緊急事態宣言がだされたもの
 - 国際的な支援が要請されたもの

自然災害による各国の死者と災害別割合 (1975~2001)

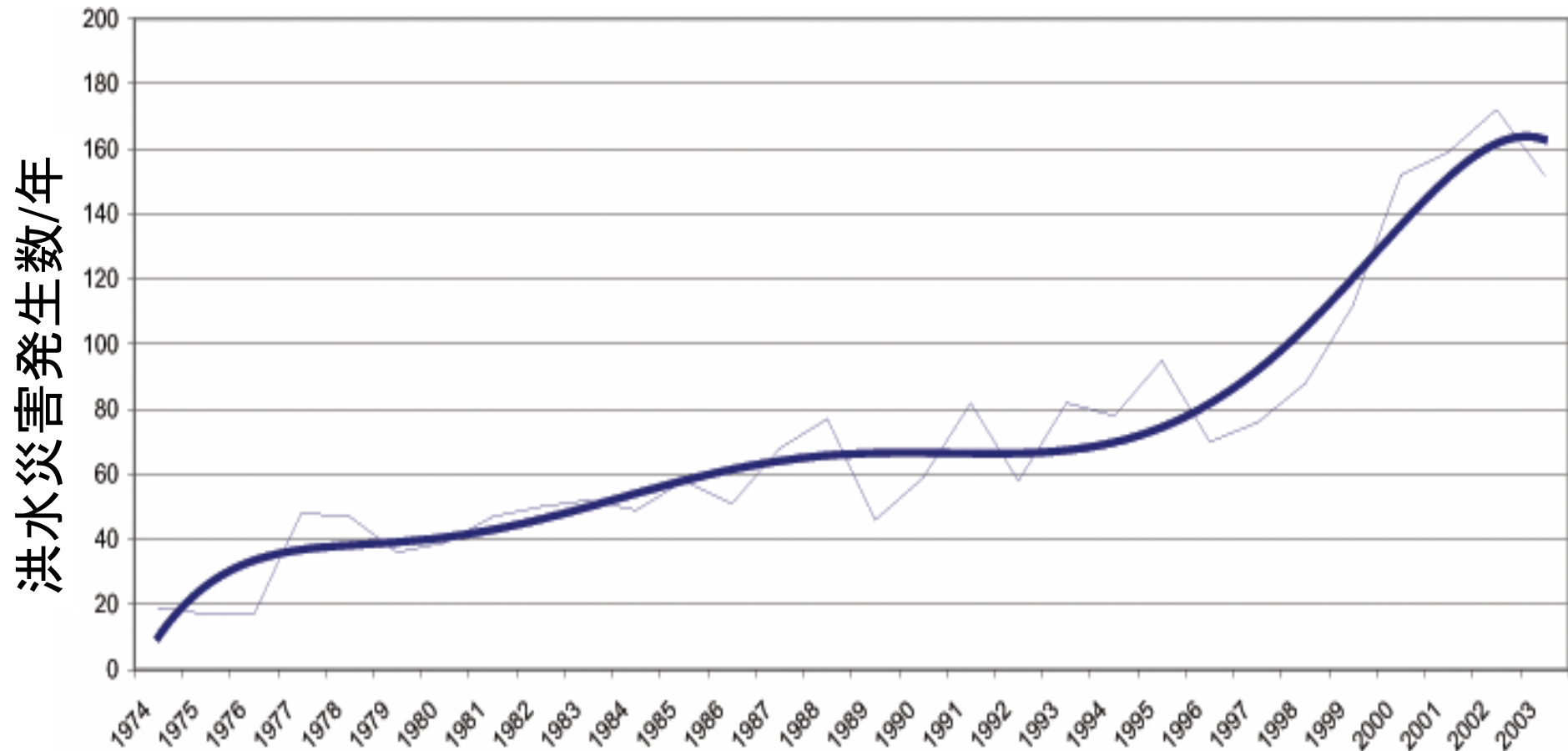


EM-DAT: The OFDA/CRED International Disaster Database
 (<http://www.cred.be>; email: cred@epid.ucl.ac.be)



洪水災害の発生数の推移

(報告されたもの、世界、1974-2003、n=2156)



Hoyois,D and D. Guha-Sapir, D, 2004: **Disasters caused by flood : Preliminary data for a 30 year assessment of their occurrence and human impact. (EM-DAT)**